
1～4年次前期・選択

1単位・15時間

【概要・目標】

卒業後様々な世代の患者さんと、芸術（音楽）の話題を通じて心の交流ができるようになることを目指して、特に音楽と看護学に関する様々な話題を提供していきます。「感性と芸術」という科目名は「身体と音楽」と読み替えていただくと、この科目の目指す方向、内容が理解しやすくなると思われます。古代ギリシャ以来、音楽と看護学・医学は意外に深い関係にあり、将来看護職関係の仕事に従事する方々にとって、音楽のことを知っておくことはきっと役に立つと思います。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 音楽療法の可能性1：音楽運動療法
- 2) 音楽療法の可能性2：癒しと音楽～大脳辺縁系に与える音楽の作用
- 3) 音楽療法の可能性3：緩和ケア病棟と音楽
- 4) 聴覚と音楽：増加している若年世代の難聴・日本人の耳&欧米人の耳
- 5) 喉頭と音楽：人間の声が出るしくみ・クラシック音楽の声楽曲入門
- 6) 身体と音楽：様々なリズム感と生活様式との関連
- 7) 日本人と西洋人の音楽的感性の相違：日本人の好きな音質・音高
- 8) 明治以降の音楽：各世代の患者さんはどのような音楽を聴いてきたか

【評価】

レポート（70%）、毎回の講義への感想提出（20%）、参加態度（10%）

指定した数冊の本の中から各自の興味に沿って1冊を選び、その本を読んで得た知識、興味深かったこと、その読書を通じて興味を持ち、さらに自分で調べてみてわかったことなどを自由に記述してレポートとして提出してください。試験はありません。

【教科書】

適宜資料を配布します。

【推薦参考図書】

- 佐藤正之『音楽療法はどれだけ有効か』化学同人,2017
田村恵子『余命18日をどう生きるか』朝日新聞出版,2010
岩田誠『脳と音楽』メディカルレビュー社,2001
田村和紀夫『徹底図解 クラシック音楽の世界』新星出版社,2012
片山杜秀『ベートーヴェンを聴けば世界史がわかる』文春新書,2018

【その他】

E-mail izumi@wakayama-u.ac.jp